

炊煙起る

頼山陽

煙未だ浮ばず 天皇愁たもろ

煙已に起る 天皇喜びたまろ

漏屋敝衣赤子を富ましむ

子富みて父貧しき此理無し

八洲綾々百万の煙

皇統も族擁して長えに天に接す

【作者】頼山陽（一七八〇〜一八三二年）（安永九年十二月〜天保三年九月）

名は襄（のぼる）、字は子成（しせい）、号は山陽。大坂江戸堀に生まれた。父春水は安芸藩の儒者。七歳の時叔父杏坪について書を読み、十八歳で江戸に遊学した。二十一歳で京都に走り、脱藩の罪により幽閉される。のち各地を遊歴し、天保三年九月病のため没す。年五十三歳。著書に「日本外史」「日本政記」「日本樂府（がふ）」などがある。

【備考】仁徳天皇の故事を題材とした漢詩。